



## 記

明けましておめでとうございます！昔は正月に1歳齡をとりましたが、戦後は満年齢なので、私など4年に一度ですから、20歳とうそぶいてます。幹事さん！今年は誕生日はないの。すみませんね。どうぞお気遣いなく。お気持ちだけで感謝。さて、今回は例年のように正月気分のオペレッタではなく、昨年11月23日の新聞で訃報を知ったロシアのバリトン歌手、ディミトリー・ホロストフスキーの歌う、ヴェルディ作曲「トラバトーレ」に致します。これはオペラの中でも最も有名な作品の一つで、中で歌われるアンヴィルコーラス（鍛冶屋の合唱）は、お聞きになればきっとご存知のメロディーですし、第三幕のマンリーコが歌う「見よ、燃え盛る炎を」は勇ましく、テノール泣かせのハイCで輝く高音部を引き延ばして歌います。これを歌うパバロッチが舞台前に慎重に声を出す準備をしている姿を映像で見たことが有りますが、成功すれば、やんやの大喝采ですが、一度ミラノで最後の音を失敗したことが有り、これを聞いたかった観衆は大ブーイング。あのパバロッチがしばらく出演しなくなったことがありました。トラバトーレ（吟遊詩人）のマンリーコが恋人と会っている処に以前から彼女を愛していたルーナ伯爵が現れ、女性が止めるのも聞かず、互いに剣を抜きます。このルーナ伯爵をホロボストフスキーが歌います。彼はオネーギンや仮面舞踏会で見事なバリトンで魅了していましたが、昨年から脳腫瘍で入院中でした。若々しく美しい顔ですが、銀髪で不思議な魅力の歌手でした。今年の始め頃にメトビューイングで彼が出演した時は彼が重病と知っていた観客はルーナ伯爵の姿で舞台に出てきた時、オペラ上演中にも拘らず一斉に拍手で迎えてしまい、フィナーレではもう観客も舞台も全員の笑顔と喜びに溢れていた様子に感動しましたのに、ショックでした。You tubeでは同じく銀髪のご両親の姿や葬儀での群衆の様子が何万回もあり、彼のファン層の厚さと悲しみを共にした事を思い出します。このマンリーコには、韓国人の歌手が歌いますが、上手です。又例によって、ドミンゴのマンリーコの版も一応持参致しましょう。では。

以上

青戸

